

日本築港史

總說

凡ソ大工事ナルモノハ國家ノ財力若クハ衆資ノ結合ヲ以テスルニ非レハ容易ニ興スコト能ハサルモノニシテ戰國ノ凋弊ハ平和ノ洪業ヲ企圖スルニ至ラス封建制度ノ如キハ資財ノ集合ヲ阻止シ古來我國ニ於テ土木工事ノ見ルヘキモノ極テ尠ナキハ其故ナキニ非サルナリ殊ニ築港工事ノ稀ナルハ由來鎖國ノ政策行ナハレタル結果航運事業ヲ萎靡セシメタルニ起因スル所多ク徳川幕府ノ治下ニ於テ大船ノ建造ヲ嚴禁シタル事實ハ港灣ノ修築ヲ無用ナラシメタル一大原因タラスンハアラス漸ク明治ノ昭代ニ及ヒ初メテ斯業振興ノ曙光ヲ見ルニ至レリ

翻テ歐洲諸邦ニ於ケル港灣ノ沿革ヲ案スルニ佛國カシエール港ノ修築工事ヲ起セルハ千六百八十七年即チ我貞享四年ニアリ又タ英國カプリマス港ノ築設ニ著手シタルハ千八百十二年(文化九年)ニシテ前者ノ我ニ先ンスルコト二百餘年以テ

我築港事業ノ幼稚ナルヲ知ルヘシ

惟フニ島國ノ生命ハ海運ニアリテ其發展ニ缺ク可ラサルモノハ卽チ港津ナリ而テ其數ト規模ハ國內産業發達ノ程度ニヨルモノナレハ英國ノ如キ沿岸平均約八里毎ニ一港ヲ有シ今日港津ノ新設セララル、モノ極メテ少ナク現ニ工事中ニアルモノハ港内ノ設備ヲ完成セントスルニアリ然ルニ我本土ニ於ケル港津間ノ距離ハ平均八十里而モ築港工事ハ概シテ外構ノ築設ニ過キス故ニ將來富力ノ増進ニ伴ヒ我港津ハ多大ノ變遷ヲ呈スルニ至ルヘク是ニ於テ以下記述スル諸港ノ既往及ヒ現況ハ後日ノ爲メ其原形ヲ示シ工事ノ設計ト其運用上ニ於ケル便否ノ關係、工事各部構造ノ強弱、用材ノ適否等ヲ語り以テ參考ニ資スル處アルヘキヲ信スルモノナリ